

釣り中の事故にご用心！！

東北地方では、9月から12月にかけて、釣り中の事故が増加する傾向にあります。釣り中の事故として最も多いのは、防波堤や岸壁等からの海中転落で、ライフジャケットの着用率も低く、死亡・行方不明に至る事故も発生しています。

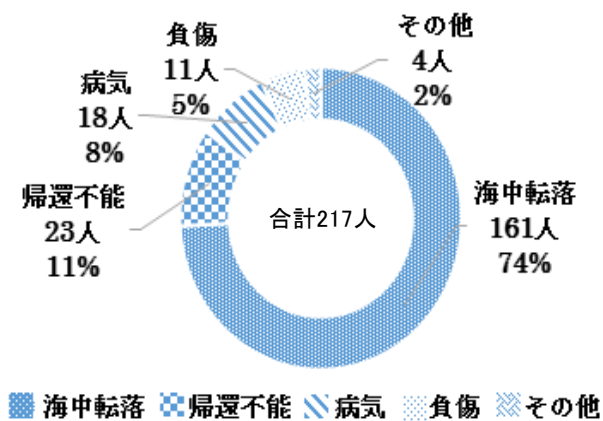
事故事例

早朝、友人と2名で立入禁止柵を越えて防波堤に侵入し、釣りをしていたところ、誤って海中に転落した。友人がバケツを投げ入れ、バケツの紐を引いて事故者を引き揚げようとしたが、途中紐が切れてしまい、118番及び110番通報し、臨場した救助隊により同人を発見、救助したが、死亡が確認された。

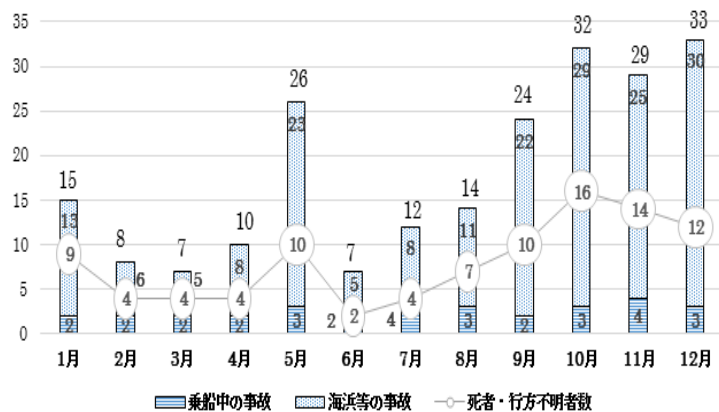
事故者(3才)は、父親と兄と一緒に釣りをしていたが、釣りを終え父親が釣り道具を片付けるため、約50m離れた駐車場に行っている間に海中転落した。直ちに引揚げ、心臓マッサージ等の蘇生措置が行われるも、医師により死亡が確認された。

釣り中の事故発生状況(H19-H28)

【事故種類別発生状況】



【月別発生状況】



第二管区海上保安本部 海の安全推進室

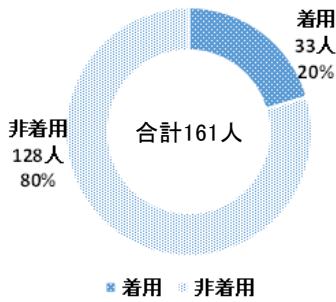
宮城県塩釜市貞山通3-4-1
(代表) 022-363-0111
(直通) 022-365-9609

🔍 マリレよろず 検索

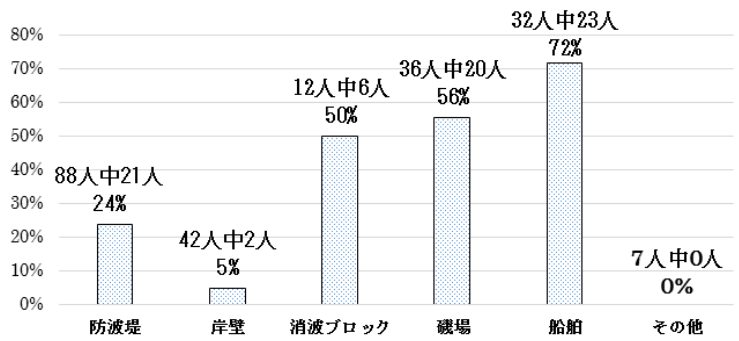
事故防止のための基本！

①ライフジャケット着用の徹底

【海中転落者のライフジャケット着用率(H19-H28)】



【場所別によるライフジャケット着用率(H19-H28)】



海中転落者で、ライフジャケットを着用していたのは、全体の2割に留まっています。
また、海中転落事故が多い防波堤・岸壁でのライフジャケット着用率が、他に比べ低い状況にあります。

②適切な連絡手段の確保

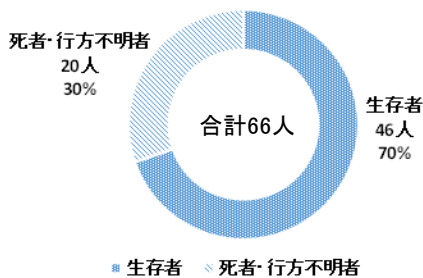


③海の緊急通報118番の有効活用

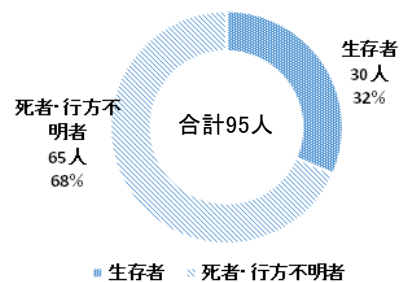
『海のもしもは118番』

④複数名行動の励行

【海中転落者の複数名行動生存率(H19-H28)】



【海中転落者の単独行動生存率(H19-H28)】



単独行動は、万が一事故に遭った際、発見・救助が遅れてしまう可能性があります。
複数で行動していた際の海中転落者の生存率は、単独に比べ、2倍以上になります。
もし、1人で釣りに行く際は、家族等に行き先や帰宅時間を伝えておくようにしましょう。

⑤立入りが禁止されている防波堤等へ立ち入らない

⑥子供から目を離さない



自分の命を守るためには、自らの心がけが重要です！



マリレ情報よろず屋
～バックナンバーはこちら～

海の安全情報スマホ版サイト
(沿岸域情報提供システム)

